

平成 20 年度

北海道大学アイヌ民族生活実態調査
速報版

北海道大学アイヌ・先住民研究センター

2009.5.29

平成 20 年度 北海道大学アイヌ民族生活実態調査（速報版）

北海道大学アイヌ・先住民研究センター

1 目的

教育・就労・生活・意識などの面から、社会的にアイヌ民族の生活実態を把握し、今後の学術研究及びアイヌ民族政策に寄与することを目的とする。

2 対象と方法

北海道在住の 18 歳以上 85 歳未満のアイヌ民族とその世帯員を調査対象とした。調査対象者の選定に当たっては、北海道ウタリ協会（現 北海道アイヌ協会）の全面的協力を得て、現及び元協会員とその世帯員は全員対象とするように努めたほか、一定数の非会員も対象とした。

調査票の配布・回収は配布留置法で行った。ただし、一部、郵送法も用いた。

調査対象者の住所、氏名、電話番号等の個人情報、すべて北海道ウタリ協会が管理し、北海道大学アイヌ・先住民研究センターは、回収された無記名の調査票のみを扱った。

3 調査実施時期

調査員（アイヌ生活相談員及び北海道ウタリ協会支部長等）は、平成 20 年 10 月 1 日から 31 日の期間で調査票の配布と回収を行い、11 月中旬までに北海道大学アイヌ・先住民研究センターに送付した。

4 回収結果

世帯調査票は 3,438 票配布し、2,903 票が有効票として回収され、個人調査票は 7,306 票配布し、5,703 票が有効票として回収された。有効回収率は、世帯票が 84.4%、個人票が 78.1%となった。

5 調査結果の公表

国において進行しているアイヌ民族に係る総合的政策の検討に資するため、関連が深く、解釈の余地の少ない調査項目を平成 21 年 5 月末に速報版として公表し、調査の全項目を含む完全版の公表は 21 年秋を予定する。

北海道大学アイヌ民族生活実態調査 単純集計結果

<世帯調査>

配布数=3,438 有効回収数=2,903 有効回収率=84.4%

1. 基本データ：支部

	札幌	江別	千歳	恵庭	八雲	長万部	旭川	豊富
実数	284	14	68	17	125	39	18	7
構成比	9.8	0.5	2.3	0.6	4.3	1.3	0.6	0.2

	網走	紋別	室蘭	苫小牧	登別	伊達	豊浦	洞爺湖
実数	16	11	45	193	45	84	21	17
構成比	0.6	0.4	1.6	6.6	1.6	2.9	0.7	0.6

	壮瞥	白老	追分	むかわ	平取	新冠	新ひだか	三石
実数	7	276	10	232	191	84	173	37
構成比	0.2	9.5	0.3	8.0	6.6	2.9	6.0	1.3

	浦河	様似	えりも	帯広	音更	上士幌	芽室	幕別
実数	141	82	154	96	5	4	26	14
構成比	4.9	2.8	5.3	3.3	0.2	0.1	0.9	0.5

	本別	浦幌	釧路	弟子屈	阿寒	鶴居	白糠	根室
実数	10	38	72	23	42	1	46	21
構成比	0.3	1.3	2.5	0.8	1.4	0.0	1.6	0.7

	標津	未組織地区	合計
実数	94	20	2903
構成比	3.2	0.7	100.0

2. 基本データ：居住地

	札幌市	小樽市	旭川市	室蘭市	釧路市	帯広市	岩見沢市	網走市
実数	286	2	20	47	115	95	2	16
構成比	9.9	0.1	0.7	1.6	4.0	3.3	0.1	0.6

	苫小牧市	美唄市	江別市	紋別市	根室市	千歳市	登別市	恵庭市
実数	194	1	14	11	23	68	45	17
構成比	6.7	0.0	0.5	0.4	0.8	2.3	1.6	0.6

	伊達市	北広島市	石狩市	当別町	八雲町	長万部町	岩内町	南幌町
実数	82	4	4	1	125	39	1	1
構成比	2.8	0.1	0.1	0.0	4.3	1.3	0.0	0.0

	長沼町	豊富町	豊浦町	壮瞥町	白老町	追分町	厚真町	洞爺湖町
実数	1	7	21	7	275	10	3	17
構成比	0.0	0.2	0.7	0.2	9.5	0.3	0.1	0.6

	むかわ町	平取町	新冠町	浦河町	様似町	えりも町	新ひだか町	音更町
実数	229	192	85	140	82	154	206	6
構成比	7.9	6.6	2.9	4.8	2.8	5.3	7.1	0.2

	上士幌町	新得町	芽室町	幕別町	本別町	足寄町	浦幌町	弟子屈町
実数	4	1	26	14	10	1	38	23
構成比	0.1	0.0	0.9	0.5	0.3	0.0	1.3	0.8

	鶴居村	白糠町	標津町	合計
実数	1	45	92	2903
構成比	0.0	1.6	3.2	100.0

※近年、合併をした市町村は合併後の地名で統一した。「釧路市」の中には一部「釧路町」居住者が含まれている可能性がある。

3. 家族数

	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	無回答	合計
実数	484	718	589	530	360	169	41	12	2903
構成比	16.7	24.7	20.3	18.3	12.4	5.8	1.4	0.4	100.0

2人世帯、3人世帯が多い。10人家族が最も大きな世帯であった。

4. 年齢

	0歳代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代
実数	427	1175	1321	1083	1317	1607	1153	573
構成比	4.8	13.3	14.9	12.3	14.9	18.2	13.0	6.5

	80代	90代	合計	平均
実数	160	22	8838	41.5歳
構成比	1.8	0.2	100.0	

5. 性別

	男性	女性	合計
実数	4293	4392	8684
構成比	49.4	50.6	100.0

6. 現在、生活保護を受けていますか。

	現在受けている	以前受けていたことがある	受けたことはない	無回答	合計
実数	152	140	2319	292	2903
構成比	5.2	4.8	79.9	10.1	100.0

生活保護を「現在受けている」世帯は全体の5.2%、「以前受けていたことがある」のは4.8%であった。なお、平成18年度の生活保護被保護実世帯数は、北海道で3.5%、全国で2.1%である。

7. 就学援助は受けていますか。(複数回答)

	アイヌの子女を対象とした「高等学校等進学奨励事業」の支援を受けている	「高等学校等進学奨励事業」の支援を以前受けたことがある	その他の就学援助を受けている	その他の就学援助を受けていた	何も受けていない	無回答	合計
実数	357	1027	70	86	989	464	2903
構成比	12.3	35.4	2.4	3.0	34.1	16.0	100.0

「高等学校等進学奨励事業」の支援を受けたことがある、あるいは現在受けている世帯は全体の47.7%に及ぶ。他の就学援助の利用率は5.4%であり、差が見られた。

8. 世帯全体の年収は税込みで次のどれに近いですか。

	なし	100万円 未満	100万円 以上～ 200万円 未満	200万円 以上～ 300万円 未満	300万円 以上～ 400万円 未満	400万円 以上～ 500万円 未満	500万円 以上～ 600万円 未満	600万円 以上～ 700万円 未満
実数	92	195	432	567	409	280	177	102
構成比	3.2	6.7	14.9	19.5	14.1	9.6	6.1	3.5

	700万円 以上～ 800万円 未満	800万円 以上～ 900万円 未満	900万円 以上～ 1000万円 未満	1000万円 以上	無回答	合計	平均
実数	71	40	60	100	278	2903	355.8万円
構成比	2.4	1.4	2.1	3.4	13.0	100.0	369.2万円

※「平均」上段＝全体の平均、下段＝年収なしを除いた有所得者の平均。

世帯全体の年収は 355.8 万円であった。しかし、「200 万円以上 300 万円未満」のカテゴリーが 19.5%と最も多くなっている。

＜個人調査＞

配布数=7,306 有効回収数=5,703 有効回収率=78.1%

9. 基本データ：支部

	札幌	江別	千歳	恵庭	八雲	長万部	旭川	豊富
実数	507	36	131	54	305	85	30	14
構成比	8.9	0.6	2.3	0.9	5.3	1.5	0.5	0.2

	網走	紋別	室蘭	苫小牧	登別	伊達	豊浦	洞爺湖
実数	35	14	82	362	75	191	30	19
構成比	0.6	0.2	1.4	6.3	1.3	3.3	0.5	0.3

	壮瞥	白老	追分	むかわ	平取	新冠	新ひだか	三石
実数	11	586	11	643	354	125	272	70
構成比	0.2	10.3	0.2	11.3	6.2	2.2	4.8	1.2

	浦河	様似	えりも	帯広	音更	上士幌	芽室	幕別
実数	267	66	438	171	5	8	42	27
構成比	4.7	1.2	7.7	3.0	0.1	0.1	0.7	0.5

	本別	浦幌	釧路	弟子屈	阿寒	鶴居	白糠	根室
実数	15	99	72	34	59	2	74	48
構成比	0.3	1.7	1.3	0.6	1.0	0.0	1.3	0.8

	標津	未組織地区	合計
実数	185	49	5703
構成比	3.2	0.9	100.0

最も回収数が多かったのは「むかわ」支部の643人。加えて「白老」支部と「札幌」支部の3支部が500人を超えている。胆振、日高の支部で回収数が多い。

10-1. 性別

	男性	女性	不明	合計
実数	2795	2885	23	5703
構成比	49.0	50.6	0.4	100.0

10-2. 年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	合計	平均
実数	160	751	707	1089	1378	982	490	83	63	5703	48.81
構成比	2.8	13.2	12.4	19.1	24.2	17.2	8.6	1.5	1.1	100.0	-

10-3. 年齢6階層

	30歳未満	30～40歳未満	40～50歳未満	50～60歳未満	60～70歳未満	70歳以上	不明	合計
実数	911	707	1089	1378	982	573	63	5703
構成比	16.0	12.4	19.1	24.2	17.2	10.0	1.1	100.0

11. あなたのご両親、祖父母などの中にアイヌの血を引く方はいますか。(複数回答)

	父親	父方祖父	父方祖母	母親	母方祖父	母方祖母	養父	養母
実数	2386	1263	1266	2385	1226	1472	114	92
構成比	41.8	22.1	22.2	41.8	21.5	25.8	2.0	1.6

	配偶者	いない	わからない	その他	無回答	合計
実数	1851	234	478	50	175	5703
構成比	32.5	4.1	8.4	0.9	3.1	100.0

父親あるいは母親がアイヌの血筋であるという人が41.8%ずつであった。数字の上でほぼ同数となっているが、両親ともアイヌの血を引いているという人は、半数の1080人である。「配偶者」がアイヌという人は32.5%とおおよそ3分の1であった。

12-1. あなたが生まれたところはどこですか。

	道内	道外	国外	無回答	合計
実数	5221	253	43	186	5703
構成比	91.5	4.4	0.8	3.3	100.0

12-2. 生誕地（道内）(N=5703)

	むかわ町	白老町	平取町	えりも町	新ひだか町	札幌市	八雲町	浦河町
実数	578	431	359	330	321	274	244	230
構成比	10.1	7.6	6.3	5.8	5.6	4.8	4.3	4.0

	苫小牧市	帯広市	伊達市	室蘭市	釧路市	標津町	千歳市	新冠町
実数	188	137	136	102	100	100	95	95
構成比	3.3	2.4	2.4	1.8	1.8	1.8	1.7	1.7

	長万部町	白糠町	様似町	日高町	浦幌町	根室市	登別市	旭川市
実数	87	86	85	78	62	59	56	52
構成比	1.5	1.5	1.5	1.4	1.1	1.0	1.0	0.9

	豊浦町	芽室町	函館市	小樽市	弟子屈町	洞爺湖町	夕張市	網走市
実数	35	35	32	31	29	28	27	23
構成比	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4

	岩見沢市	北見市	本別町	美瑛市	恵庭市	石狩市	厚真町	音更町
実数	19	17	16	15	15	14	14	14
構成比	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2

	幕別町	紋別市	留萌市	森町	広尾町	別海町	足寄町
実数	13	12	11	11	11	11	10
構成比	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2

人数	市町村名
9	芦別市、江別市、赤平市、安平町、羅臼町
8	上士幌町、池田町
7	稚内市、三笠市
6	滝川市、北斗市、余市町、大樹町
5	歌志内市、富良野市、羽幌町、豊富町、斜里町
4	士別市、名寄市、深川市、北広島市、鹿追町、せたな町、寿都町、増毛町、大空町、厚岸町、標茶町
3	砂川市、松前町、福島町、江差町、倶知安町、岩内町、泊村、栗山町、下川町、美幌町、壮瞥町、釧路町
2	木古内町、上ノ国町、今金町、黒松内町、蘭越町、ニセコ町、京極町、積丹町、古平町、上砂川町、南富良野町、苫前町、天塩町、猿払村、置戸町、遠軽町、湧別町、新得町、清水町、陸別町、中標津町
1	当別町、七飯町、鹿部町、奥尻町、留寿都村、喜茂別町、共和町、神恵内村、仁木町、奈井江町、長沼町、愛別町、上川町、中川町、初山別村、遠別町、礼文町、小清水町、西興部村、士幌町、中札内村、豊頃町、鶴居村

12-3. 生誕地（道外・国外）

	青森県	樺太	岩手県	東京都	秋田県	神奈川県	大阪府	福島県
実数	43	30	21	20	17	14	9	8
構成比	0.8	0.5	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.1

	宮城県	千葉県	静岡県	愛知県	埼玉県	その他・不明	無回答
実数	7	7	7	7	6	35	392
構成比	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.6	6.9

人数	都道府県名・国名・地域名
5	群馬県、京都府、宮崎県、鹿児島県
4	山形県、広島県、福岡県、長崎県
3	茨城県、栃木県、新潟県、長野県、満州
2	富山県、石川県、島根県、山口県、香川県、熊本県、中国、アメリカ、国後島
1	山梨県、岐阜県、三重県、滋賀県、兵庫県、奈良県、岡山県、徳島県、高知県、大分県、択捉島、フィリピン、朝鮮、ロシア

生まれたところは道内が圧倒的に多く 91.5%を占める。具体的な地名を見ると、現在の支部と同じく「むかわ町」や「白老町」が多い。「札幌市」は 4.8%に過ぎず、札幌への人口移動があることがわかる。

道外生まれでは「青森県」「岩手県」「秋田県」などの東北地方北部や「東京都」「神奈川県」などの大都市圏が多い。高齢者に「樺太」出身者が 30 人、北方領土出身者が 3 人いた。

※合併前の住所は、現在の住所に直して集計している。

13-1. あなたのご両親が最後に卒業（中退）された学校はどれですか。（父親）

	小学校(尋常小学校)	中学校(高等小学校)	高等学校(旧制中学校)	専門学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	その他
実数	1580	1574	802	76	23	95	2	45
構成比	27.7	27.6	14.1	1.3	0.4	1.7	0.0	0.8

	わからない	無回答	合計
実数	1027	479	5703
構成比	18.0	8.4	100.0

13-2. あなたのご両親が最後に卒業（中退）された学校はどれですか。（母親）

	小学校(尋常小学校)	中学校(高等小学校)	高等学校(高等女学校)	専門学校	短期大学・高等専門学校	大学	大学院	その他
実数	1608	1538	878	101	33	17	3	59
構成比	28.2	27.0	15.4	1.8	0.6	0.3	0.1	1.0

	わからない	無回答	合計
実数	1017	449	5703
構成比	17.8	7.9	100.0

両親とも、「小学校（尋常小学校）」「中学校（高等小学校）」までしか行っていない人が半数を占める。また高等教育機関への進学率が父親 2%強、母親 1%程度と極めて低い。

14-1. (あなたが 15 歳のころ) あなたのご家族の生活ぶりはいかがでしたか。

	苦しかった	多少困る程度	少しゆとりがあった	豊かであった	無回答	合計
実数	2591	1648	938	185	341	5703
構成比	45.4	28.9	16.4	3.2	6.0	100.0

14-2. 世代別

	苦しかった	多少困る程度	少しゆとりがあった	豊かであった	合計
30 歳未満	20.7	42.7	29.5	7.1	850
30～40 歳未満	32.3	37.7	25.0	5.0	665
40～50 歳未満	41.2	35.6	20.4	2.9	1052
50～60 歳未満	57.5	27.2	13.4	1.9	1305
60～70 歳未満	67.7	22.4	7.4	2.5	930
70 歳以上	71.6	16.0	10.1	2.3	514
合計	48.4	30.7	17.5	3.4	5316

15 歳のころ、生活が「苦しかった」人は 45.4%であった。世代別にみると、若い世代ほど生活はよい実感があるようである。ただし、30 歳未満のカテゴリーでも「苦しかった」と「多少困る程度」が 63.4%と 3 分の 2 近くになっている。

15. あなたはいつ頃、自分自身がアイヌであると感じましたか。

	小学校入学前から	小学生のころ	中学生のころ	高校生のころ	高校卒業以降	わからない	無回答	合計
実数	505	1027	507	140	144	292	110	2725
構成比	18.5	37.7	18.6	5.1	5.3	10.7	4.0	100.0

16. その時、あなたがアイヌであると感じたきっかけは何ですか。(複数回答)

	親から聞いた	親以外の家族・親戚から聞いた	近所の人から聞いた	友達から指摘された	学校の先生に指摘された	身体的特徴に気づいた	その他	無回答	合計
実数	1364	494	175	644	68	443	229	140	2725
構成比	50.1	18.1	6.4	23.6	2.5	16.3	8.4	5.3	100.0

アイヌとしての自覚を持つ時期は「小学生のころ」が37.7%と最も多い。中学校を卒業するころには、おおよそ4人に3人が自分はアイヌであることを意識しているようである。意識するきっかけとなったのは、「親から」が半数と圧倒的に多く、続いて「友達」が23.6%と多くなっている。

17. あなたは、アイヌとして誇りを感じる点がありますか。(複数回答)

	アイヌの歴史	アイヌの文化	アイヌ差別との戦い	アイヌの偉人たち	身体的特徴	その他	特にない	無回答	合計
実数	891	1180	607	465	152	54	807	145	2725
構成比	32.7	43.3	22.3	17.1	5.6	2.0	29.6	5.3	100.0

18. あなたは、アイヌとして嫌だと感じる点がありますか。(複数回答)

	アイヌの歴史	アイヌの文化	アイヌ差別の経験	生活水準	身体的特徴	その他	特にない	無回答	合計
実数	70	60	1202	554	882	50	793	134	2725
構成比	2.6	2.2	44.1	20.3	32.4	1.8	29.1	4.9	100.0

アイヌとして誇りを感じることは、「文化」が43.3%、「歴史」が32.7%と多くなっている。その一方で、「差別の経験」(44.1%)や「身体的特徴」(32.4%)が嫌な点として多く挙げられている。

19-1. あなたはこれまでにどのような学校に通ってきましたか。(通ったことのある人数)

	保育所	幼稚園	小学校 (尋常 小学校)	中学校 (高等 小学校)	高等学校 (旧制中 学校・高 等女学 校)	専門 学校	短大・ 高専	大学	大学院
実数	1890	1075	4988	4813	3145	652	188	251	12
構成比	33.1	18.8	87.5	84.4	55.1	11.4	3.3	4.4	0.2
N	5703	5703	5703	5703	5703	5703	5703	5703	5703

19-2. 世代別経験率

	保育所	幼稚園	小学校 (尋常 小学校)	中学校 (高等 小学校)	高等学 校(旧制 中学校・ 高等女 学校)	専門 学校	短大・ 高専	大学	大学院
30歳未満	558	361	850	852	819	162	59	123	3
	79.4	60.4	99.9	99.9	95.2	26.7	10.3	20.2	0.6
30～40歳未満	431	240	649	650	557	126	42	39	3
	76.8	56.1	99.8	99.7	87.3	26.7	9.5	9.0	0.7
40～50歳未満	566	255	1014	1021	794	147	35	29	2
	65.5	39.5	99.6	99.4	79.8	20.6	5.2	4.3	0.3
50～60歳未満	275	167	1202	1218	623	150	30	33	1
	29.4	19.9	98.9	98.8	57.6	19.7	4.1	4.6	0.1
60～70歳未満	39	39	797	773	247	37	17	19	3
	6.7	6.9	97.8	92.5	37.3	7.7	3.5	4.0	0.6
70歳以上	10	2	438	265	75	21	4	3	0
	3.3	0.7	95.6	68.1	23.5	8.9	1.7	1.3	0.0
合計	1879	1064	4950	4779	3115	643	187	246	12
	47.7	31.6	98.9	95.8	68.4	19.7	6.0	7.8	0.4

高等学校までは55.1%と半数以上が通っているが、高校卒業後になると「専門学校」でも11.4%、「短大・高専」が3.3%、大学が4.4%と急激に通ったことのある人数が減っている。

世代が若くなると高校経験率は高くなる。30歳未満の世代に関しては95.2%で、全国平均の96.0%と同様ほぼ全入となっている。一方で大学への進学率は、30歳未満でも20.2%で、同世代の平均42.2%と比較して20ポイント以上低くなっている。

19-3. 高等学校（旧制中学校・高等女学校）（N=3145）

	卒業			設置			課程		
	卒業	中退	在学中	国公立	私立	不明	全日制	定時制	通信制
実数	2242	337	41	1420	369	12	1582	239	32
構成比	71.3	10.7	1.3	45.2	11.7	0.4	50.3	7.6	1.0

7割弱の高等学校進学者のうち、少なくとも10.7%は中退している。また、進学先の高等学校も、少なくとも7.6%は定時制であった。なお、高等学校生徒全体に占める定時制高校生徒の割合は年代によって大きく異なるが、平成20年度の北海道で3.6%（143,140人中5395人）である。

19-4. 専門学校（N=652）

	卒業			設置		
	卒業	中退	在学中	国公立	私立	不明
実数	511	62	26	135	174	35
構成比	78.4	9.5	4.0	20.7	26.7	5.4

19-5. 短大・高専（N=188）

	卒業			設置			課程		
	卒業	中退	在学中	国公立	私立	不明	全日制	定時制	通信制
実数	139	17	16	39	78	3	101	5	3
構成比	73.9	9.0	8.5	20.7	41.5	1.6	53.7	2.7	1.6

19-6. 大学（N=251）

	卒業			設置			課程		
	卒業	中退	在学中	国公立	私立	不明	全日制	定時制	通信制
実数	120	48	67	48	131	1	148	10	15
構成比	47.8	19.1	26.7	19.1	52.2	0.4	59.0	4.0	6.0

19-7. 大学院（N=12）

	卒業			設置		
	卒業	中退	在学中	国公立	私立	不明
実数	4	1	2	6	1	0
構成比	33.3	8.3	16.7	50.0	8.3	0.0

高等学校以降の高等教育機関への進学率はぐっと下がり、その中でもなお、「専門学校」で9.5%、「短大・高専」で9.0%の中途退学者が出ている。四年制大学では中退率はさらに10ポイントあがり、19.1%であった。

20-1. (現在、在学中でない方) あなたはさらに進学したかったですか。

	進学した かった	進学したく なかった	無回答	合計
実数	1793	2652	1109	5554
構成比	32.3	47.7	20.0	100.0

20-2. (進学したかった方) どこまで進学したかったですか。

	小学校	中学校	高校	専門学校	短大・高専	大学	大学院	その他
実数	11	54	576	124	60	548	26	6
構成比	0.6	3.0	32.1	6.9	3.3	30.6	1.5	0.3

	無回答	合計
実数	388	1793
構成比	21.6	100.0

21. (進学したかった方) 進学をあきらめたのはなぜですか。(複数回答)

	経済的な 理由	就職する 必要があ ったから	親に反対 されたから	学力の 問題	その他	特に理由 はない	無回答	合計
実数	1364	441	192	244	92	55	33	1793
構成比	76.1	24.6	10.7	13.6	5.1	3.1	1.8	100.0

さらに上の学校へ「進学したかった」という 32.3%の人々のうち、4分の3にあたる 76.1%は「経済的な理由」で進学を断念している。また、「就職する必要があったから」という理由も経済的な問題の一環といえる。

22. あなたは、これまでに転職をしたことがありますか。

	ある	ない	就職したこ とがない	無回答	合計
実数	3311	1459	260	673	5703
構成比	58.1	25.6	4.6	11.8	100.0

23-1. 就業形態（初めての仕事）

	経営者・ 役員	常時雇 用され ている 一般従 業者	パート、 アルバ イト、臨 時雇 用、季 節労働	自営業 主	家族従 業者	その他	無職	学生	無回答	合計
実数	75	2215	1371	363	343	56	47	45	1188	5703
構成比	1.3	38.8	24.0	6.4	6.0	1.0	0.8	0.8	20.8	100.0

23-2. 職業（初めての仕事）

	事務的 職業	保安的 職業	販売的 職業	技能工・ 生産工程 に関わる 職業	運輸・通信 的職業	専門・技術 的職業	管理的 職業	農林水産 的職業
実数	585	81	515	1224	158	293	5	782
構成比	10.3	1.4	9.0	21.5	2.8	5.1	0.1	13.7

	サービ スの職 業	その他	無職	学生	無回答	合計
実数	619	40	43	46	1312	5703
構成比	10.9	0.7	0.8	0.8	23.0	100.0

初職は、就業形態では「常時雇用されている一般従業者」（38.8%）が、職業では「技能工・生産工程に関わる職業」（21.5%）が最も多い。次いで「農林水産的職業」（13.7%）「サービスの職業」（10.9%）が多かった。

24-1. 就業形態（最長の仕事）

	経営者・ 役員	常時雇 用され ている 一般従 業者	パート、 アルバ イト、臨 時雇 用、季 節労働	自営業 主	家族従 業者	その他	無職	学生	無回答	合計
実数	127	1780	1272	549	407	48	47	44	1429	5703
構成比	2.2	31.2	22.3	9.6	7.1	0.8	0.8	0.8	25.1	100.0

24-2. 職業（最長の仕事）

	事務的 職業	保安的 職業	販売的 職業	技能工・ 生産工程 に関わる 職業	運輸・通信 的職業	専門・技術 的職業	管理的 職業	農林水産 的職業
実数	453	47	412	1074	294	273	27	912
構成比	7.9	0.8	7.2	18.8	5.2	4.8	0.5	16.0

	サービスの 職業	その他	無職	学生	無回答	合計
実数	545	45	55	41	1525	5703
構成比	9.6	0.8	1.0	0.7	26.7	100.0

最も長く勤めていた職業も「技能工・生産工程に関わる職業」が18.8%で最も多いが、初職と比較すると2.7ポイント少なくなっている。また、「農林水産的職業」は16.0%と初職より2.3ポイント増加している。

25-1. 就業形態（現在の仕事）

	経営者・ 役員	常時雇 用され ている 一般従 業者	パート、 アルバ イト、臨 時雇 用、季 節労働	自営業 主	家族従 業者	その他	無職	学生	無回答	合計
実数	162	1212	1106	634	469	50	906	81	1083	5703
構成比	2.8	21.3	19.4	11.1	8.2	0.9	15.9	1.4	19.0	100.0

25-2. 職業（現在の仕事）

	事務的 職業	保安的 職業	販売的 職業	技能工・ 生産工程 に関わる 職業	運輸・通信 的職業	専門・技術 的職業	管理的 職業	農林水産 的職業
実数	302	40	266	854	256	244	50	957
構成比	5.3	0.7	4.7	15.0	4.5	4.3	0.9	16.8

	サービスの職業	その他	無職	学生	無回答	合計
実数	454	60	903	78	1239	5703
構成比	8.0	1.1	15.8	1.4	21.7	100.0

25-3. 世代別就業形態（現在の仕事）

	経営者・役員	常時雇用されている一般従業者	パート、アルバイト、臨時雇用、季節労働	自営業主	家族従業者	その他	無職	学生	合計
30歳未満	0.6	39.7	24.2	3.0	8.5	1.7	11.4	10.9	726
30～40歳未満	2.7	33.3	28.5	7.2	10.9	0.8	16.4	0.2	622
40～50歳未満	3.8	30.8	26.8	14.4	10.8	1.2	12.0	0.1	976
50～60歳未満	5.2	26.2	24.7	19.0	10.1	1.4	13.4	0.0	1138
60～70歳未満	4.9	12.5	23.3	19.1	8.5	0.6	31.2	0.0	721
70歳以上	2.2	4.0	8.6	15.6	14.1	0.2	55.3	0.0	405
合計	3.5	26.2	24.0	13.6	10.2	1.1	19.7	1.8	4588

25-4. 世代別職業（現在の仕事）

	事務的職業	保安的職業	販売的職業	技能工・生産工程に関わる職業	運輸・通信的職業	専門・技術的職業	管理的職業	農林水産的職業
30歳未満	10.6	1.3	8.0	19.4	1.7	10.1	0.1	12.7
30～40歳未満	11.6	1.5	6.7	22.0	6.2	5.4	0.5	14.1
40～50歳未満	7.9	1.1	5.8	19.5	8.4	6.4	0.7	23.5
50～60歳未満	5.2	0.6	6.8	21.6	6.7	5.4	1.9	25.3
60～70歳未満	2.6	0.4	4.7	19.0	6.7	2.3	1.9	24.3
70歳以上	0.3	0.5	1.3	6.5	1.0	0.8	1.3	28.2
合計	6.7	0.9	6.0	19.1	5.7	5.5	1.1	21.4

	サービスの職業	その他	無職	学生	合計
30歳未満	13.4	0.6	11.3	10.8	715
30～40歳未満	12.1	3.0	16.7	0.2	610
40～50歳未満	12.0	1.8	12.8	0.0	960
50～60歳未満	10.7	1.2	14.8	0.0	1076
60～70歳未満	6.0	1.0	31.1	0.0	688
70歳以上	2.3	0.3	57.5	0.0	386
合計	10.1	1.4	20.3	1.8	4435

現在の職業では、「無職」が増えており、これは定年などで仕事を辞めた人が多いためと考えられる。「農林水産的職業」(16.8%)が「技能工・生産工程に関わる職業」(15.0%)を上回り最も多い職業となっている。

初職から一貫して、「専門・技術的職業」「管理的職業」「事務的職業」などのホワイトカラー職は低く、ブルーカラー職に従事している人が多数を占めていることがわかる。

26. 現在働いている勤務先の従業員数を教えてください。

	自分1人	2～4人	5～9人	10～49人	50～99人	100～499人	500～999人	1000人以上
実数	314	692	591	940	343	349	83	168
構成比	5.5	12.1	10.4	16.5	6.0	6.1	1.5	2.9

	官公庁	無職	学生	無回答	合計
実数	41	702	63	1417	5703
構成比	0.7	12.3	1.1	24.8	100.0

現在働いている勤務先は、いわゆる「中小企業」が多く、「大企業」に勤める人は数%しかいない。また、公務員も0.7%しかいない。

27. 現在働いている職場で認められているものを教えてください。(複数回答)

	退職金	賞与	雇用保険	労災保険	年休	育児休暇	住宅手当	通勤手当
実数	885	1166	2066	1769	1052	224	470	1196
構成比	19.8	26.0	46.1	39.5	23.5	5.0	10.5	26.7

	わからな い	どれも認 められて いない	無回答	合計
実 数	222	698	1224	4479
構 成 比	5.0	15.6	27.3	100.0

「雇用保険」(46.1%)や「労災保険」(39.5%)などは比較的認められている職場が多いようであるが、それでも半数には達していない。また、賞与が出る人は全体の4分の1ほど(26.0%)であった。「どれも認められていない」という人も15.6%いる。

28-1. 現在、あなたの生活ぶりはいかがですか。

	苦しい	多少困る 程度	少しゆとり がある	豊かであ る	無回答	合計
実 数	1911	2308	912	76	496	5703
構 成 比	33.5	40.5	16.0	1.3	8.7	100.0

28-2. 世代別：現在、あなたの生活ぶりはいかがですか。

	苦し かった	多少困る 程度	少しゆとり があ った	豊かであ った	合計
30歳未満	27.0	48.4	21.4	3.3	823
30～40歳未満	33.9	46.2	18.7	1.2	664
40～50歳未満	39.3	44.6	15.2	1.0	1049
50～60歳未満	38.4	42.5	18.1	0.9	1277
60～70歳未満	41.6	42.6	14.7	1.0	870
70歳以上	37.8	41.8	18.5	1.9	481
合計	36.7	44.3	17.6	1.5	5164

(再掲) 14-2. 世代別：(15歳のころ)あなたのご家族の生活ぶりはいかがでしたか。

	苦し かった	多少困る 程度	少しゆとり があ った	豊かであ った	合計
30歳未満	20.7	42.7	29.5	7.1	850
30～40歳未満	32.3	37.7	25.0	5.0	665
40～50歳未満	41.2	35.6	20.4	2.9	1052
50～60歳未満	57.5	27.2	13.4	1.9	1305
60～70歳未満	67.7	22.4	7.4	2.5	930
70歳以上	71.6	16.0	10.1	2.3	514
合計	48.4	30.7	17.5	3.4	5316

参考．北海道アイヌ生活実態調査

	とても 苦しい	多少困る 程度	少しゆとり がある	豊かであ る	無回答
平成 5 年調査	33.0	44.0	20.0	1.0	2.0
平成 11 年調査	31.0	49.6	18.0	0.7	0.7
平成 18 年調査	0.3	18.3	51.4	29.7	0.3
本調査	33.5	40.5	16.0	1.3	8.7

「苦しい」(33.5%)と「多少困る程度」(40.5%)が合わせて74.0%と多く、「豊かである」は1.3%にとどまるなど、生活ぶりはあまりよいとはいえない。15歳のころの生活ぶりと比較すると、「苦しかった」「苦しい」が45.4%→33.5%と減少する一方で「豊かであった」「豊かである」も3.2%→1.3%と減少している。生活ぶりに関する意識が均一化、それも「多少困る程度」に集約されているようである。

北海道が行った「北海道アイヌ生活実態調査」の結果と比較すると、「とても苦しい」が減少し「豊かである」が激増した平成18年調査から、それ以前の水準に戻っていることがわかる。

29. 次に挙げる年金のうち、どれに加入・受給していますか。

	国民年金	共済年金	厚生年金	その他の 年金	加入・受給 していな い	無回答	合計
実数	2437	111	2161	50	475	469	5703
構成比	42.7	1.9	37.9	0.9	8.3	8.2	100.0

30. 次に挙げる健康保険のうちどれに加入していますか。

	国民健康 保険	その他の 健康保険	加入して いない	無回答	合計
実数	2891	1876	213	723	5703
構成比	50.7	32.9	3.7	12.7	100.0

年金は「国民年金」が42.7%、「厚生年金」が37.9%であった。「加入・受給していない」人も8.3%いた。健康保険では国民健康保険が最も多く50.7%と過半数である。「加入していない」人は3.7%であった。

31. あなたご自身の年収。(税込み)

	なし	100万円 未満	100万円 以上～ 200万円 未満	200万円 以上～ 300万円 未満	300万円 以上～ 400万円 未満	400万円 以上～ 500万円 未満	500万円 以上～ 600万円 未満	600万円 以上～ 700万円 未満
実数	930	1026	1079	961	468	230	127	72
構成比	16.3	18.0	18.9	16.9	8.2	4.0	2.2	1.3

	700万円 以上～ 800万円 未満	800万円 以上～ 900万円 未満	900万円 以上～ 1000万円 未満	1000万円 以上	無回答	合計	平均
実数	51	22	30	75	632	5703	197.5万円
構成比	0.9	0.4	0.5	1.3	11.1	100.0	241.9万円

※「平均」上段＝全体の平均、下段＝年収なしを除いた有所得者の平均。

個人の年収は「100万円以上 200万円未満」が18.9%と最も多く、また、300万円未満の人が70.1%を占めている。平均年収は197.5万円で、「なし」を除外した有所得者に限っても241.9万円であった。

32. あなたは次のような不公平が今の日本にあると思いますか。

		大いにある	少しはある	ない	わからない	無回答	合計
性別による不公平	実数	920	2259	859	570	1095	5703
	構成比	16.1	39.6	15.1	10.0	19.2	100.0
学歴による不公平	実数	1904	1883	477	465	974	5703
	構成比	33.4	33.0	8.4	8.2	17.1	100.0
職業による不公平	実数	1464	1958	678	529	1074	5703
	構成比	25.7	34.3	11.9	9.3	18.8	100.0
所得・資産による不公平	実数	1847	1679	545	573	1059	5703
	構成比	32.4	29.4	9.6	10.0	18.6	100.0
家柄による不公平	実数	1328	1757	890	620	1108	5703
	構成比	23.3	30.8	15.6	10.9	19.4	100.0
人種・民族による不公平	実数	1443	1832	818	631	979	5703
	構成比	25.3	32.1	14.3	11.1	17.2	100.0

「学歴による不公平」が「大いにある」「少しはある」という人が66.4%と最も多くなっている。「人種・民族による不公平」を挙げたのは57.4%であった。

33. 下記のアイヌ伝統文化の宗教儀礼を実践したり、聞いたりしたことがありますか。

		現在も実践している	過去に体験したことがある	人の話やうわさ等で知っている	知らない	無回答	合計
クマ送り	実数	63	425	1834	2345	1036	5703
	構成比	1.1	7.5	32.2	41.1	18.2	100.0
クマ以外の動物送り	実数	38	193	1071	3242	1159	5703
	構成比	0.7	3.4	18.8	56.8	20.3	100.0
サケを迎える儀式	実数	269	426	1708	2264	1036	5703
	構成比	4.7	7.5	29.9	39.7	18.2	100.0
伝統的な婚礼・葬儀	実数	76	302	1155	3018	1152	5703
	構成比	1.3	5.3	20.3	52.9	20.2	100.0
伝統的な地鎮祭・新築祝い	実数	119	357	976	3086	1165	5703
	構成比	2.1	6.3	17.1	54.1	20.4	100.0
伝統的な先祖供養	実数	530	612	1034	2487	1040	5703
	構成比	9.3	10.7	18.1	43.6	18.2	100.0
イナウを捧げる	実数	424	541	985	2677	1076	5703
	構成比	7.4	9.5	17.3	46.9	18.9	100.0
神々への祈り	実数	432	496	1270	2450	1055	5703
	構成比	7.6	8.7	22.3	43.0	18.5	100.0
神聖な場所への祈り	実数	282	332	1070	2885	1134	5703
	構成比	4.9	5.8	18.8	50.6	19.9	100.0
海・川・山でのタブーや約束事	実数	190	185	923	3261	1144	5703
	構成比	3.3	3.2	16.2	57.2	20.1	100.0
器物送り	実数	96	156	749	3507	1195	5703
	構成比	1.7	2.7	13.1	61.5	21.0	100.0
まじない	実数	48	179	794	3502	1180	5703
	構成比	0.8	3.1	13.9	61.4	20.7	100.0
占いや霊をおろす人にみてもらう	実数	35	245	730	3483	1210	5703
	構成比	0.6	4.3	12.8	61.1	21.2	100.0
夢見を大事にする	実数	322	215	825	3190	1151	5703
	構成比	5.6	3.8	14.5	55.9	20.2	100.0

「現在も実施している」人が最も多いのは「伝統的な先祖供養」(9.3%)であった。逆に未経験者が多いのは「器物送り」(61.5%)「まじない」(61.4%)「占いや霊をおろす人にみてもらう」(61.1%)などであった。

34. アイヌ文化の伝承活動・復興活動に参加したり実践したりしたことがありますか。

		現在関わ っている	かつて関 わったこと がある	関わったこ とがない	無回答	合計
アイヌ語	実数	307	724	3618	1054	5703
	構成比	5.4	12.7	63.4	18.5	100.0
口承文芸（ユカラ、ウエペ ケレ等）	実数	181	365	4020	1137	5703
	構成比	3.2	6.4	70.5	19.9	100.0
歌（ウポポ、座り唄等）	実数	361	550	3698	1094	5703
	構成比	6.3	9.6	64.8	19.2	100.0
楽器（ムックリ、トンコリ等）	実数	339	686	3585	1093	5703
	構成比	5.9	12.0	62.9	19.2	100.0
踊り	実数	431	727	3484	1061	5703
	構成比	7.6	12.7	61.1	18.6	100.0
祭事（カムイノミ等）	実数	546	805	3322	1030	5703
	構成比	9.6	14.1	58.3	18.1	100.0
編み物	実数	175	403	4000	1125	5703
	構成比	3.1	7.1	70.1	19.7	100.0
刺繍	実数	288	590	3743	1082	5703
	構成比	5.0	10.3	65.6	19.0	100.0
織物	実数	141	317	4112	1133	5703
	構成比	2.5	5.6	72.1	19.9	100.0
伝統的狩猟・農法・漁法	実数	132	308	4117	1146	5703
	構成比	2.3	5.4	72.2	20.1	100.0
調理・保存法	実数	306	624	3684	1089	5703
	構成比	5.4	10.9	64.6	19.1	100.0
木彫	実数	170	508	3916	1109	5703
	構成比	3.0	8.9	68.7	19.4	100.0
自然観察会（エコツアー 等）	実数	120	259	4179	1145	5703
	構成比	2.1	4.5	73.3	20.1	100.0

最も「現在関わっている」人が多かったのは「祭事（カムイノミ等）」（9.6%）であった。関わった人が少ないのは「自然観察会（エコツアー）」（73.3%）「伝統的狩猟・農法・漁法」（72.2%）「織物」（72.1%）であった。

35. 上記の活動のうち、今後、関わりたいと思っているもの。(複数回答)

	アイヌ語	口承文芸	歌	楽器	踊り	祭事	編み物	刺繍
実数	581	212	296	341	312	329	328	478
構成比	10.2	3.7	5.2	6.0	5.5	5.8	5.8	8.4

	織物	伝統的 狩猟・農 法・漁法	調理・ 保存法	木彫	自然 観察会	無回答	合計
実数	355	303	459	430	475	4161	5703
構成比	6.2	5.3	8.0	7.5	8.3	73.0	100.0

今後関わってみたいものとしては「アイヌ語」(10.2%)が最も多く挙げられている。

36. あなたのお子さんにはどの学校まで進学してほしいですか。

	中学校	高等学校	専門学校	短期大学・ 高専	大学	大学院	その他	わからな い
実数	12	1011	616	440	2053	138	55	506
構成比	0.2	17.7	10.8	7.7	36.0	2.4	1.0	8.9

	(子どもに 任せる)	無回答	合計
実数	35	837	5703
構成比	0.6	14.7	100.0

高校まででよいという人は17.7%であった。大学まで行かせたいという人が36.0%と最も多くなっている。また、選択肢としては挙げていなかったが、「その他」として「子どもの希望するところまで」「子どもに任せる」という人が0.6%いた。

37. 下記のアイヌ民族に関する施策のうち、あなたの考えに近いもの。(5つまで)

	アイヌ文化を学び、研究するための国立センターを設置する	アイヌ語・アイヌ文化などを学校教育に取り入れる	アイヌ民族を対象として農林水産商工業などを振興する	アイヌ民族の雇用対策を拡充する	アイヌ民族に対して高校・大学進学や学力向上への支援を拡充する	アイヌ民族が国有地・道有地などを自由に利用できるようにする	アイヌ民族が鮭などを捕獲できるように規制緩和をはかる	アイヌ民族への差別が起こらない人権尊重の社会をつくる
実数	1242	1863	1339	2449	2908	1174	845	2864
構成比	21.8	32.7	23.5	42.9	51.0	20.6	14.8	50.2

	アイヌ政策を審議するための常設機関を国及び地方に設ける	民族特別議席など、国政・地方政治にアイヌ民族の声を反映させる仕組みをつくる	アイヌ民族の土地・資源に対して補償を行う	アイヌ民族のみを対象にした特別な政策は行わない	その他	無回答	合計
実数	881	1214	1233	479	143	1147	5703
構成比	15.4	21.3	21.6	8.4	2.5	20.1	100.0

「アイヌ民族に対して高校・大学進学や学力向上への支援を拡充する」(51.0%)と「アイヌ民族への差別が起こらない人権尊重の社会をつくる」(50.2%)、「アイヌ民族の雇用対策を拡充する」(42.9%)などが特に多かった。